

## 序

現在、国際社会において、グローバル化が進展する中で、あらゆる分野で国境を越えた協力・調整・交渉が不可欠となっており、国際社会のみならず、地域社会等においてもグローバル化への対応を牽引・指導する次世代リーダーが必要となっています。

次世代グローバルリーダー事業「シップ・フォー・ワールド・ユース・リーダーズ」は参加青年の国際的視野を広げ、国際協調の精神を養い、各分野において社会貢献を行うことができる次代を担うリーダーを育成することを目指しています。

本事業では、「Towards Infinity: Tomorrow's Leaders Today」のスローガンを掲げ、日本を含む11か国の青年たちが平成28年1月中旬からの7日間の陸上研修を経て、4年ぶりの海外運行となる34日間にわたる航海を行い、船上研修及び訪問国における寄港地活動等を行いました。

研修においては、社会貢献活動を共通テーマとして六つのテーマ(地域づくり、防災、教育、環境、情報・メディア、青年起業)に分かれたコース・ディスカッションを行うとともに、今回は有識者による「異文化理解セミナー」「リーダーシップセミナー」及び「プロジェクトマネジメント・セミナー」を行い、参加青年がより具体的な社会貢献活動への企画・立案を実現できるように学びと理解を深めることができました。

また、訪問国のインドとスリランカ民主社会主義共和国においては、各コース・ディスカッションのテーマに沿った施設先の訪問や、現地青年との文化交流活動を通じて各地域の文化や歴史の学びを深めました。さらに、表敬訪問やレセプションなどの公式行事を通して国際儀礼を身に付けることで、国際親善を深めることができました。

帰国後は、日本参加青年が本事業の振り返り及び事後活動について話し合う二日間の研修を行い、無事に全行程を終了することができました。

今後もあらゆる分野においてますます重要な役割を果たすことのできる次世代グローバルリーダーを育成すべく、プログラムの向上を図ってまいります。

本報告書は、世界各国の参加青年が日本国内、船内及び各訪問国で行った様々な活動について記録したものです。この報告書を通じ、事業の成果を御理解いただくとともに、今後の一層の御支援をいただければ幸いです。

参加青年が、事業終了後も本事業で得た知識や経験、培ったネットワークをいかし、世界各国で国際交流活動や社会活動に取り組むことは意義深いことであり、内閣府としてもこのような事後活動を支援しております。今後も参加青年がリーダーシップを発揮し、社会においてますます重要な役割を果たすことを願ってやみません。

最後に、本事業の実施に当たって御協力いただいた参加各国の政府関係者、各国事後活動組織のメンバーである既参加青年及びホストファミリーの皆様並びに外務省を始めとする関係省庁、地方公共団体及び青少年団体の関係各位に、心から御礼申し上げます。

平成28年3月

内閣府青年国際交流担当室長 安田 貴彦

#### 略称一覧

グローバルユースリーダー育成事業 「シップ・フォー・ワールド・ユース・リーダーズ」	SWY
参加青年	PY
日本参加青年	JPY
外国参加青年	OPY
既参加青年	Ex-PY
ナショナル・リーダー	NL
サブ・ナショナル・リーダー	SNL
アシスタント・ナショナル・リーダー	ANL
アシスタント・グループ・リーダー	AGL
「世界青年の船」事後活動組織	SWYAA
日本青年国際交流機構	IYEO
国立オリンピック記念青少年総合センター	オリンピックセンター

※本文の中で略称が使用されている場合がありますので、御参照ください。